

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年どおりであれば、2月は良くない月であるが、来月初旬に当地で開催される世界ジュニアスケート大会参加のため、外国人選手等が中心市街地で宿泊している。そのため、ホテルを始め、飲食及び若者向けの衣料品等で売上が増加している。また、高校1～2年生を中心とする若年者の来店が映画館を始めとした遊戯施設で増加しており、飲食等における若年層の比率も増加している。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・寒さや吹雪などの天候要因により、防寒衣料や寝具などの冬物商材の売上が伸びた。また、着物の展示会では染織作家の作品などの高額商品が売れた。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー減税やエコカー補助金の効果により、新型ハイブリット車の売行きが好調である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金の効果により、例年と比べて売上が大きく伸びている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型車の発売に加えて、エコカー減税の延長とエコカー補助金の復活により、販売量に弾みが出てきている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・今冬の道東への観光客の入込は流氷の接岸とともに増加傾向にある。外国人観光客も台湾を中心に目立ってきている。ただし、北海道全体の観光客数は、さっぽろ雪まつりと春節が重なった前年に比べると減少している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・例年であれば、2月は3か月前と比較して売上が落ち込むが、今年は雪が非常に多く、寒かったせいか、3か月前と比較して、売上は98.8%と落ち込みが少ない。前年との比較でも、前年比103.3%と売上が増加している。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・店舗での通信端末の販売価格の低下にとともに、客の購入が更に積極的になってきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・東日本大震災から1年近くが過ぎ、客の生活が以前の状況に戻ってきているため、来店周期、売上とも、回復してきている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・1～2月と株式市場が活気を呈してきているのにつれて、客の購買意欲が相当上向ってきている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・マンション購入の意思決定に要する時間がかかり短くなっている。以前であれば平均で1か月程度必要であったが、今では1週間程度になってきている。
	変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子
		商店街（代表者）	お客様の様子	・まだ気温が低いため、2月の閑散期の割には、客が冬物衣料を購入する傾向がみられる。ただし、冬物衣料を置いている店と春物衣料に切り替えている店との間で差が出ているため、一概に良いとは言えない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は以前と変わらない。春を控えて、気持ちの上では少し前向きさもみられるが、買物の様子は3か月前と比べて大して変わっていない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月は非常に寒い日が続いたため、来客数の動きが鈍い。春物衣料も、紳士服、婦人服ともまだ動きがみられない。ただ、バレンタインやひな人形などの販売量は前年と比べて10%増加している。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・10月、12月、1月と当店の売上は前年を上回ったが、買上客数が前年を上回ったのは12月のみである。2月は天候要因もあるが、現時点の売上は前年比94%、買上客数は前年比95%と苦戦している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・2月に入り、来客数の伸びが鈍ってきている。さらに、販売量や客単価の動きも低下傾向にある。月後半になり、少し持ち直してきているが、景気が上向きになるほどの勢いは感じられない。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・天候要因による来客数の減少が売上に影響しているものの、客単価は前年並みを維持しており、全体的な基調は変わっていない。ただし、天候の影響があまりなかったような日でも来客数の前年維持が困難になってきている。

	スーパー（店長）	販売量の動き	・依然として販売量も売上も前年の9割を下回っており、低水準で足踏みしている状態にある。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・今月も気温が低く推移しているため、春物衣料の動きの悪い状況が続いている。来客数の動きも悪く、前年の93～95%で推移している。
	スーパー（役員）	それ以外	・過去にない大雪の影響で、宅配事業の受注が好調であり、前年から10%以上の伸びとなっている。新規加入者も毎週増加している。ただし、売上規模がまだ小さいため、全体の売上を押し上げるまでの効果は出ていない。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年の2倍の積雪量があったことで、近くの小売店での買物にシフトした傾向がみられ、売上にプラスの効果が見られた。ただし、売上は回復傾向にあるが、来客数は前年並み程度にとどまっている。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今月は気温の低下、積雪の多さにより来客数が減少している。しかし、販売量の増加や単価の上昇により、売上は前年を上回っている。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・商店街全体からみて、あまり大きな変化がみられない。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・売上が伸びておらず、来客数も横ばいで推移している。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・1月に続き2月も悪天候の連続である。例年にない積雪の影響で、外食するような雰囲気ではなくなっている。例年、閑散期にはイベントを実施しているが、今月はイベントの効果もみられない。特に、ディナーは厳しい状況が続いており、売上は前年比で2けたのマイナスである。
	観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・来客数は徐々に回復傾向にあるが、東日本大震災をきっかけに本州方面からの団体客が落ち込んだままであり、外国人客や地元客の増加で補っている状況である。以前と客層が大きく変わっているため、単価の低い外国人客、地元客では収支が合わない。被災地ばかりがクローズアップされているが、北海道を含めた東日本の観光地が疲弊してきている。
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・さっぽろ雪まつりという大型イベントがあったにもかかわらず、来客数で前年比6.4%、単価で前年比6.5%の落ち込みがみられた。依然として、価格訴求型の商品から売れていく傾向が強い。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・次年度の受注状況が前年比で6%程度下回っている。先に見える案件が少なく、法人需要の動きも鈍い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・寒い日が多かったため、2月のタクシーの売上は前年をやや上回った。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今年は寒さが厳しく、降雪量も前年より多かったため、若干ではあるが、タクシーの利用客が増えている。ただし、全体的には非常に悪い状態が続いている。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・冬のイベントの多い時期であるため、国内外からの来場者が前年比120%と増加しているが、売上にはそれほど結びついていない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年にない大雪と寒さで来客数が10～20%ほど落ち込んでいる。特に、商店街全体としては、公共交通機関を利用する高齢者を中心に土日の来街者が減っている。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・今月は雪の影響により、来客数も客単価も落ち込んでいるが、基本的な景況感は3か月前と変わっていない。当地でも小さな倒産が続いており、客との会話でも復興景気を望む声だけが大きい。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月は特に得意先の買上量が少なくなっている。バラ買いの増加や買物の頻度の低下が大変顕著に表れた月であった。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温の低い日が続いていて、客の関心が春物衣料に向かない状況が続いている。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・百貨店にとって今年の豪雪は大打撃である。年配の主婦は家から出ることを控えている。

	スーパー（店長）	それ以外	・卒業、入学関連の動きが例年よりも遅い。また、着回しが増えているせいか、サイズやカラーなどを組み合わせることのできるセットアップ商品の動きが強い。前年より気温が低く、降雪量、積雪量も多いため、春物衣料の動きが鈍い。食品は依然として堅調であるが、高額な支出については消費を押さえる面が多少出ている。	
	スーパー（役員）	来客数の動き	・商品単価、買上点数とも伸びており、客単価が前年比で3%強上昇しているが、来客数は前年比で4%前後落ち込んで推移している。今年は雪が例年より多いため、車での移動が面倒とみられる日も多く、各企画での来客数も増加していない。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客単価が伸びているが、来客数の落ち込みが続いており、販売量が減少している。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・薄型テレビが売れていない分、前年と比較して販売量が落ち込んでいる。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年のエコポイント需要の反動が大きく、家電の主力商品となるテレビの売上が予想以上に大きく落ち込んでいる。年末よりも更に状況が悪くなってきている。	
	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・理由は分からないが、カーナビの売上が減少している。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・通常営業でも、フェアでも来客数が低調に推移しており、売上が前年を下回った。特に、悪天候の日は客足の落ち込みが顕著であった。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年よりも来客数が減少している。中国や台湾からの外国人客は戻ってきているが、全体的な来客数の増加にはつながっていない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年を下回っている。ただし、外国人客の利用に関する問い合わせが徐々にみられるようになってきている。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・現時点の来客数は前年比で約70%となっている。3か月前の前年比は約90%であったことから、落ち込みが目立っている。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・天候不良にともなうフェリーの欠航日の増加に加えて、年間で最も少ない物流量となる時期であるため、旅客、車両ともに輸送量が減少している。	
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客単価が低下している。客の様子をみると、通常は700円代のおみやげなどがよく売れるが、今はその半額の350円～380円の商品を買う客が増えてきている。最近は現役世代の観光客がほとんどみられなくなっており、時間に余裕のある高齢者の観光が増えている。そうした客は、激安ツアーを利用することが多く、来店しても何も買わなかったり、100～200円台の商品だけを買うことが多い。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・客が繁華街に出てこない。観光客が減っていることもあり、客の来店が大きく減っている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・例年、2月は客の来店の動きが鈍いが、今年は天候の悪さも影響してか来客数が伸びない状況にある。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	建設業（従業員）	それ以外	・補正予算による公共建築工事や大型医療施設工事の発注が相次いでおり、営業活動も含めて業界の動きが活発になっている。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・案件数が増えている。年度末を控えての短期案件が多いが、とりあえずのつなぎにはなっている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・ここにきて消耗品や機器関連の売上が増加傾向にある。ただし、顧客の仕事量にばらつきがあるため、楽観視はできない。
変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・近年にないほどの大雪の影響による一時的な農水産品の価格高騰により、消費者の購買量の減少がみられたものの、冬のイベント等で観光客の入込が増加したことがプラス要因となっている。2年続けて原料価格が高騰するなかで、東日本大震災による代替生産の増加もあり、当地の食品加工業は出荷額が前年比で10%ほど上回って推移している。	

	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・マンション住宅などの工事遅れのために、家具の発注が先送り傾向にある。他の地域はますますだが、関東圏は今一つである。
	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・住宅着工率が横ばい又は下降気味であるため、受注量及び販売量に伸びがみられない。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・円高の影響により、冷凍魚、パルプ、スクラップ等の輸出が落ち込んでいる。一方で、生乳については、道内の生産量が1月までの累計で前年比99.4%まで回復してきているため、好調である。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・例年2月は物流量が落ちる時期であるが、今年はいつもと変わらない取扱量となっている。輸入貨物は順調に推移しているが、輸出貨物は円高の影響もあり、減少している。
	金融業（企画担当）	それ以外	・大雪と寒波の影響で業界によって明暗が分かれている。個人消費は冬物商戦が好調である。観光関連では、外国人観光客の動きが東日本大震災前の水準に戻っている。さっぽろ雪まつりは、開催期間中の休日が例年より1日少なかったことや雪で交通機関が混乱したこともあり、人出は前年を下回った。
	司法書士	取引先の様子	・景気動向に変化はみられない。冬の期間であるため、マンション以外の取引は少ない。消費税の増税問題の影響を受けて、建物を急いで建築しなければとの機運もみられない。
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・決算月前であるため、受注量は増えているが、例年どおりの傾向であり、大きな変化はみられない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・燃料価格の値上がりにともない、周辺からコストが増加しているという話をよく聞く。
	やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子
		司法書士	取引先の様子
	悪くなっている		
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き
		職業安定所（職員）	求人数の動き
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き
		職業安定所（職員）	求人数の動き

	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・1月の新規求人数は前年を31.7%上回り、新規求職者数は前年を2.7%上回った。月間有効求人倍率は0.59倍となり、前年を0.10ポイント上回った。しかしながら、新規求人のうち正社員求人の占める割合は43.5%と依然として低水準であり、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	それ以外	・管内の求人倍率は0.52倍と前年を0.10ポイント上回ったが、依然として低い水準である。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-